もっと知られていい、郷土の偉人

森田 正馬

▶野市図書館に保管されている森田正馬の肖像画

■香南市が、世界的に有名な精神医学者の出身地であることをご存じでしょうか？名前は「森田正馬（※もりたまさたけ、もりたしょうま）」。彼の死後、その名字をとった『森田療法』と呼ばれる心理療法は、現代においても国内外で使われ続けている優れた治療法です。

今回は、そんな郷土の知られざる偉人の1人である森田正馬について特集しました。

※森田正馬の読み方には諸説あります

広報編集委員 担当／宮﨑文敬

●森田正馬の人となり

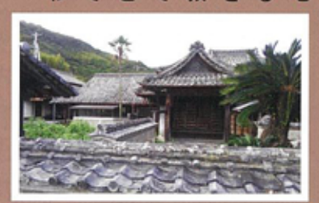
森田正馬は明治7（1874）年、香美郡富家村兎田に生まれました。江戸時代の幕末から明治にかけて、高知の人たちは自分の子どもに動物の名前をつけることを好みました。馬のように、力強く育ってもらいたいという両親の思いと裏腹に、彼は幼少期から亡くなるまでの間、結核や心拍異常など多くの持病と戦う人生を送る事になります。そしてそれらの心労に対する治療法を探求し続け、日本独自の心理療法である『森田療法』を生み出すことになります。主に高知県外で活動した正馬でしたが、亡くなるまでの間にたびたび帰郷しては、地元の人たちの治療や多額の寄付を行ったので、今も残る生家の近くには、戦前の青年団が建てた顕徳碑が建立されています。

香南市にある「森田正馬」ゆかりの地

■森田正馬生家

約83坪（約274㎡）の敷地に約170㎡の平屋と蔵が建てられている。平成8年から平成23年までは不登校や不登校傾向にある子どもたちが通塾する「森田村塾」として使用されていた。

現在は、地元有志による生家保存を願う会と教育委員会で建物の保存と活用について協議が行われている。



■森田村塾

教育支援センター。現在の施設は、平成29（2017）年に旧富家小学校跡地に建てられた。不登校児童生徒の個別相談を中心にカウンセリング、学力補充、集団への適応指導を行い、自主性や主体性を育成し、家庭や社会生活に適応できるように助言や支援を行うことを目的としている。

森田正馬

●森田療法とは？

薬を使わず、入院して外部の影響を断ち、最低限の生活からやり直すことで心身を回復させ、そこから日々の作業を増やし最終的な社会復帰を目指す、実践的な心理療法です。不安や恐怖は、よりよく生きたいという思いの裏返しであるため、「あるがまま」に受け入れ共存することを重要視しています。現在では通院形式や投薬が用いられる等、患者に応じた治療の多様化が進んでいます。

「森田療法」は、森田正馬が存命だったころは『家庭療法』や『特殊治療』と呼ばれていたそうです。

●独自の価値観

森田正馬が森田療法を生み出すきっかけは、彼の平坦でない学問人生にあります。勉強熱心な正馬でしたが、経済事情や持病のせいで思うように進学できず、悩める学生時代を送ってきました。古今東西の哲学や宗教を勉強し、やっとのことで東京大学の医学部に進学したかと思えば、学者たちに初めて認められたのは医学ではなく民俗学の分野で、民間信仰についての調査研究でした。

しかし、この時に提唱した『祈祷性精神症』は、オカルトやスピリチュアルへの依存を一種の心の病であると世界に先駆けて断定し、これらをまとめた研究報告は、今でも他に例を見ない研究分析だとして、国外の研究者たちからも評価されています。

一見、寄り道のようなこれらの経験は、正馬に独自の哲学や思想、価値観を生み出すきっかけとなりました。また当時の心理医学の分野は未開拓だったこともあって、王道だった外国から招いた講師に学ぶのでなく、諸外国を学び歩いた留学生の日本人に学んだことも大きかったようです。

●知られざるゆえん

森田療法が生まれて100年以上が経ちました。心理医学の分野で著名な活躍をした森田正馬ですが、なぜ現代の香南市・高知県の人々の知名度がこんなにも低いのでしょうか？取材をする中で見えてきたものは、心理医学という分野がデリケートな一面を含んでいること、森田正馬および彼の後継者たちが高知県外で活動していたこと、そして森田正馬が戦前に亡くなったことが挙げられます。

坂本龍馬が軍神から革命家へ戦前のイメージを払拭できたように、森田正馬も戦前のイメージから脱却する時期に来ているのかもしれません。

※参考文献
「森田正馬が語る森田療法～純な心で生きる～」 著／岩田真理
「森田正馬の生涯と業績 森田療法の誕生」 著／畑野文夫

興味を持たれた方は野市図書館へ

野市図書館には、森田正馬に関する文献や貴重な資料がたくさんあります。

興味を持たれた方はぜひ一度、野市図書館へ足をお運びください。

■森田館

元は旧富家小学校の講堂であり、森田正馬が63歳の時、彼の寄付・四千円（現在の価値で約2400万円）により昭和11（1936）年に建てられたもの。

■森田正馬先生墓所

森田正馬先生墓所は、三宝山トンネルの近くにあり、現在は新しくまとめられた一族の墓と一緒に墓地全体が大きく改修されている。墓石には正馬の弟子の1人である高良武久が記した長文の碑文が掘られている。